ムギ類赤かび病情報第1号

令和5年4月4日 愛知県農業総合試験場 環境基盤研究部病害虫防除室

防除適期(開花始期~開花期)を逃さないように防除しましょう!

ムギ類赤かび病における感染予防のための防除適期は、開花を始めた時期から開花期 (1穂につき数花開花をしているものが、全穂数の40~50%に達した日)までの間です。 農業総合試験場作物研究部発表の麦生育診断情報(第3報)によると、3月21日現在、出 穂期は平年に比べ「きぬあかり」で3日から10日早く、「ゆめあかり」で4日から7日早 いと予測されており、は種の早かった一部のほ場では既に出穂期を迎えています。また、 名古屋地方気象台3月30日発表の1か月予報によれば、天気は数日の周期で変わり、平年 と同様に晴れの日が多い見込みです。

ほ場ごとの生育状況に注意し、表を参考にしながら防除適期を逃さないように防除を実 施しましょう。また、前年に本病の発生が多かった地域では、一次伝染源となる越年した 病原菌の量が多いと考えられるため、1回目(開花期)の防除から7~10日後に2回目の 防除を実施しましょう。

表	ムギ類赤かび	病の主な防除薬剤
	庙田時期	木刻の庙田同粉

作物名	薬剤名	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	FRACコー
小麦	トップジンM水和剤	収穫14日前まで	3回以内 (出穂期以降は2回以内)	散布	1
	トップジンMゾル				
	シルバキュアフロアブル	収穫7日前まで	2回以内	散布	3
	ミラビスフロアブル	収穫7日前まで	2回以内	散布	7
	チルト乳剤25	収穫3日前まで	3回以内	散布	3
麦類	ワークアップフロアブル	収穫7日前まで	3回以内	散布	3
大麦	チルト乳剤25	収穫21日前まで	1回	散布	3
	シルバキュアフロアブル	収穫14日前まで	2回以内	散布	3
八久					
八久	ミラビスフロアブル	収穫14日前まで	2回以内	散布	7
	ミラビスフロアブル航空機用)	収穫14日前まで	2回以内	散布	7
		収穫14日前まで 使用時期	2回以内 本剤の使用回数	散布 使用方法	7 FRAC =-
(無人兒	航空機用)			使用方法 無人航空機 による散布	•
(無人病 作物名	航空機用) 薬剤名	使用時期	本剤の使用回数 3回以内	使用方法 無人航空機 による散布 無人航空機 による散布	FRAC =-
(無人兒	航空機用) 薬剤名 トップジンMゾル	使用時期 収穫14日前まで	本剤の使用回数 3回以内 (出穂期以降は2回以内)	使用方法 無人航空機 によく航空を 無人航空散布 無人航空機 による散布	FRAC =-
(無人病 作物名	航空機用) 薬剤名 トップジンMゾル チルト乳剤25	使用時期 収穫14日前まで 収穫7日前まで	本剤の使用回数 3回以内 (出穂期以降は2回以内) 3回以内	使用方法 無人航空機 による散布 無人が変機 による航空機 による航空機 による航空機 による航空機	FRAC =
(無人病 作物名	航空機用) 薬剤名 トップジンMゾル チルト乳剤25 シルバキュアフロアブル	使用時期 収穫14日前まで 収穫7日前まで 収穫7日前まで	本剤の使用回数 3回以内 (出穂期以降は2回以内) 3回以内 2回以内	使用方法 無人航る航空機 に無よ人気が動空機 に無人人を動きを に無人がるが、 に無人がるが、 に無人航るが、 に無人航るが、 に無人航るが、 に無人航るが、 に無人航るが、 に無人航るが、 に無人航るが、 に無人が、 に無人が、 にたいるが、 にたい。 にたいるが、 にたい。 にたい。 にたい。 にたい。 にたい。 にたい。 にたい。 にたい。	FRAC =
(無人類作物名 作物名	航空機用) 薬剤名 トップジンMゾル チルト乳剤25 シルバキュアフロアブル ミラビスフロアブル	使用時期 収穫14日前まで 収穫7日前まで 収穫7日前まで 収穫7日前まで	本剤の使用回数 3回以内 (出穂期以降は2回以内) 3回以内 2回以内 2回以内	使用方法 無人航空機 によ人航る散空 によ人航る散空 によ人航る散空 によん航空 無人よの 無人人 によん によん により により により により により により により により により により	FRAC =
(無人類作物名 作物名	航空機用) 薬剤名 トップジンMゾル チルト乳剤25 シルバキュアフロアブル ミラビスフロアブル ワークアップフロアブル	使用時期 収穫14日前まで 収穫7日前まで 収穫7日前まで 収穫7日前まで 収穫7日前まで	本剤の使用回数 3回以内 (出穂期以降は2回以内) 3回以内 2回以内 2回以内 3回以内	使用方法 無し大な機を 無したが、 を は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、	FRAC =

FRACコードは殺菌剤の作用機構による分類を示す。

FRACコードの詳細は、https://www.jcpa.or.jp/assets/file/labo/mechanism/code_pdf01_2022.pdfを参照する。

薬剤の散布に当たっては、ラベルの表示事項を守り、他の作物や周辺環境への飛散防止に努める。